

リサイクルフェア・大和産業展開催



21日には会場内の大和イキイ

「やまとテクノネットフェア」が開かれました。採れたて野菜の即売会や、まほろば物産展、子どもたちに人気の「わくわくミニ牧場」など、会場内の各コーナーは、家族連れなどたくさんの人たちでにぎわいました。

21日には会場内の大和イキイ

キ企業館で、市内の小・中学生のアイデア作品を展示した、第23回大和市青少年創意くふう展と表彰式が行われました。今回、市長賞に選ばれた桜丘小学校4年の北山裕之くん(ひろゆき)の作品は、円を描くときの半径を簡単・正確に設定できる「コンパス用定規」。北山くんは2年連続の市長賞を受賞です。



また、隣接する環境管理センターでは22日、資源の有効利用を進めることを目的に「リサイクルフェア」が開かれました。今年で5回目を迎えた同フェアでは、フリーマーケットや古本市、リサイクル家具・自転車の展示・即売コーナーなどにおおぜいの人が集まり、市民のリサイクル意識の高まりを感じさせていました。

やまと子ども議会開催



子どもたちに市議会のしくみや行政の役割を知ってもらうとともに、子どもたちの発想を市政に生かすことを目的に11月22日、市制施行40周年記念事業の一環として、やまと子ども議会が市議会議場で開催されました。

また、休憩時間を利用して市音楽家協会会員によるミニコンサートも開かれ、コンサートの最後には、子ども議員や傍聴席の家族ら全員で「エーデルワイス」を合唱。緊張していた子どもたちの表情も和らいでいました。

子ども議会の詳しい内容は、来年1月1日発行のやまと子ども議会だよりでご紹介します。

問い合わせは、市議会事務局(60)5503へ。

キティーク入港、厚木基地騒音対策協議会開催

飛行騒音に多くの苦情

11月13日、米空母キティークが横須賀に入港しました。入港に先立ち、厚木基地に米空母艦載機が激しい飛行騒音を伴い飛来し、市にも多くの苦情が寄せられました。苦情の内容は、一体、なにことが起きたのか、体の具合が悪くなった「子どもが泣きやまない」など、不安を訴えるものが数多くを占めています。

このような状況の中、県と大和市など厚木基地周辺7市の首長などで構成する、厚木基地騒音対策協議会「の総会が11月25日、相模原市内で開かれました。その中で、NLP(夜間連続離着陸訓練)の硫

黄島への全面移転や、毎年基地開放日に実施されている艦載機の展示飛行(デモンストラーションフライト)の中止を政府と在日米海軍に求める要請書が採択されるとともに、今後の運動展開へ向けた活発な議論が交わされました。

NLPは、現在国が提供した硫黄島で9割以上が行われていますが、厚木基地での訓練も続いており、「依然として騒音問題は解消されていない」として、全面移転実現に向け、更なる努力を国などに求め、また展示飛行についても、基地周辺住民に深刻な被害をもたらすものとして、そ

商工会議所 会頭に小田切氏



11月6日に開かれた大和商工会議所臨時議員総会で、新会頭に小田切修氏(64歳)が、また新副会頭に横澤利武氏(74歳)と山口順弘氏(70歳)がそれぞれ選任されました。

小田切氏は現在、大和東にある(株)オタギリの代表取締役会長を務め、これまでに商工会議所監事、副会頭などを歴任しています。

子どもたちに市議会のしくみや行政の役割を知ってもらうとともに、子どもたちの発想を市政に生かすことを目的に11月22日、市制施行40周年記念事業の一環として、やまと子ども議会が市議会議場で開催されました。

市内の小・中学校から選ばれた30人の「子ども議員」は、市長や教育長、市関係者らを前に、「大和市が他の市に誇れるものは何ですか?」といった子どもらしい質問から、福祉、教育、環境、厚木基地問題など、さまざまな分野で質問、意見が出されました。

建設候補地周辺住民に説明会を実施

快適な生活を支えるごみ焼却灰最終処分場

構想段階から説明会を実施

衛生的な市民生活を支える上で、ごみの焼却灰を埋める最終処分場（ ）は不可欠なものです。市では現在、上草柳に処分場を設置していますが、この処分場も県外の処分場を活用するという延命策をとらない限り、残りわずか三年ほどで一杯となってしまうという状況です。このため新しい処分場を確保しなければ

ば、安定性のない県外の処分場での埋め立てに頼らざるを得ません。

市では、市内での新たな処分場確保に向け、候補地として進入表面下（基地に離着陸する航空機の進入直下にあたる、滑走路の延長上の地域）の国有地で、土地利用が図れない基地南側の緑地帯を選定し、昨年7月から候補地周辺の自治会をはじめ、地主の皆さんに構想の説明を進めてき

ました。これは、市が建設計画を具

体化する前の構想段階から、周辺の皆さんのご意見をお聞きし、これらを取り入れながら事業を進めようとしてきたものです。これまでに延べ19回開かれた説明会では、最近クローズアップされているダイオキシン類に対する不安や周辺交通への影響などの意見が出されており、こうしたご意見を踏ま

え、これから実施を予定している環境影響評価（ ）に生かしていくことにしています。

市では、今後も周辺住民の皆さんのご意見を、さらにきめ細かく伺いできるよう、周辺自治会などで調整機関を設置していただくことをお願いしており、環境影響評価と基本設計を住民の皆さんと

次期最終処分場候補地



ごみの減量・リサイクルにご協力を

なお、市では、道路舗装の材料など、焼却灰の有効利用に向けて研究していますが、引き続き市民の皆さんにも、ごみを作らない・出さないで、リサイクルにご協力いただくようお願いいたします。

問い合わせは、環境管理センター事業課 ☎(60)5765へ。

用語解説

最終処分場

市内で集められたごみを焼却した後に残る焼却灰を埋め立てる施設。環境管理センターの焼却炉は非常に高温で焼却するため、良好な灰ですが、埋め立てる際には薬品などで処理し、水を含ませて飛散を防ぎます。また、しみ込んだ雨水などは併設の水処理施設で処理します。

環境影響評価

最終処分場の建設中、及び供用開始後に周辺環境に与える影響を、現状を調査することにより事前に予測するもの。今回の環境影響評価では、大気・水質・土壌及びそれぞれに含まれるダイオキシン類など、自然環境に関する項目のほか、周辺に暮らす人々への直接の影響となる、臭気・騒音・振動、また、周辺交通への影響や安全、景観などの項目についても調査を予定しています。



10月18日(日)、下福田コミュニティセンターで開催した、環境影響評価についての説明会。